第四期青森県がん対策推進計画の進捗状況（新指標案）

資料1－５

令和5年度

番号	項目	現状値の出典	策定時（時点）	現状値（時点）	参考全国値	目標値	進捗状況	令和８年度までの主な取組及び成果	課題	今後の取組の方向性
	生活習慣の改善やがん検診受診率向上に向けた取組									
A2	健康的な生活習慣やがん検診の意義・必要性等に関する情報提供による理解促進（青森県がん情報サービスへのアクセス件数）	青森県がん・生活習慣病対策課調べ	830,676件/年（R4年）	更新なし		100万件	評価困難	【生活習慣の改善】 ・減塩や野菜摂取等についての普及啓発 ・楽しんで参加できる運動イベントの実施 【がん検診受診率向上】 ・事業者が実施する健康診断と同日に大腸がん検診の受診を可能とするモデル事業の実施を検討。	【生活習慣の改善】 ・健康的な生活習慣づくりや疾病に関する正しい知識の普及が不十分 ・乳幼児から高齢期までのそれぞれのライフステージにおける健康課題に対応した施策の展開が必要 【がん検診受診率向上】 ・がん検診受診率は全国平均より高いが、目標値には達していないことや、４０代から５０代のがん死亡率が高く、がん検診受診率が他の年代より低いことから、更なる受診率向上への取	【生活習慣の改善】 運動、肥満及び食生活の改善等、健康づくりに関する取組の継続 【がん検診受診率向上】 科学的根拠に基づくがん検診についての丁寧な情報提供、また、職域におけるがん検診受診率向上のための仕組みづくりの検討の継続
A2-1	地域へのがん予防に関する普及啓発（がん拠点病院等が地域を対象として実施した、がんに関するセミナー等の開催回数）	がん診療連携拠点病院現況報告（厚生労働省）	6件/年（R5年）	8件/年（R7年）		増加	改善			
	指標設定の考え方	厚生労働省のがん計画のロジックモデルと同じ指標。現況届から件数を計上。 【参考】R7がん拠点病院等における市民フォーラム等の参加者数　357人 出典：がん診療連携拠点病院補助金実績報告書								
A2-2	がんに対する総合的な情報提供（がん相談支援センターを知っていますか。）	患者体験調査（厚生労働省）	74.1%（H30年度）	59.3%（R5年度）	58.0%（R5年度）	増加	悪化			
	指標設定の考え方	がん相談支援センターは総合的な情報提供の場として指標を設定。 ※患者体験調査は国立がん研究センターにおいて、がん対策推進基本計画の中間評価などの節目に合わせて実施。第1回（2018年度）、第2回（2020年）、第3回（2023年12月～2024年1月）、R8年度実施予定。 【参考】整備指針においてがん相談支援センターについて周知するための体制を整備することと示されている。								
	がん医療提供体制の充実									
B8	がんに関して専門的な医療を受けられたとする患者の割合	患者体験調査（厚生労働省）	79.5%（H30年度）	更新なし	78.7（H30年度）	90.0%	評価困難			
B8	がんの診断・治療全般についての総合的な評価	患者体験調査（厚生労働省）	8.1点（H30年度）	7.9点（R5年度）	8.2点（R5年度）	増加	悪化			
	指標設定の考え方	質問内容　今回のがんの診断・治療全般について、総合的に0～10で評価すると何点ですか。0点：考えられる最低の医療、10点：考えられる最高の医療。 平成30年度及び令和5年度の患者体験調査において同じ質問内容								

第四期青森県がん対策推進計画の指標の変更に伴い、第８次青森県保健医療計画の指標も変更とする。